別添

防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立宮古工業高等学校

Ⅰ　取組の概要

１　四国地方の津波模型の製作と高知県県立須崎工業高等学校への寄贈。

平成２７年７月７日　第１７回 日本水大賞の表彰式が、名誉総裁 秋篠宮殿下、日本科学未来館長 毛利衛氏ほか関係大臣がご出席し日本科学未来館で行われた。本校機械科津波模型班は「大賞」を受賞した。名誉総裁 秋篠宮殿下が、津波模型班の設立目的や活動内容を詳しく紹介したあと、東日本大震災と実演会についてもふれ、登校していた児童・生徒全員が無事であったこと。災害の記憶の風化や、津波防災危機意識の高揚を伝えることが重要で、減災につながるものであり、今後とも、『**この様な活動が全国に広がっていくことを期待いたします**。』と述べられた。また、津波模型班は、前年の平成２６年には、東日本大震災の支援に対し御礼の関西実演会を実施した。各会場で津波模型班の活動に対してアンケートを頂き、その中には、**津波模型班の活動の内容が理解でき、この様な活動を是非広げるべき**と記述があり、我々が行っている防災啓発活動を一緒に行いたいと思っている人も多くいるということがわかった。これらをまとめると、秋篠宮殿下のお言葉に沿うものと思われた。今、南海トラフで被害が発生しそうな四国地域では国をあげて津波に対する訓練を実施している。

平成２７年１月高知県立須崎工業高等学校と話し合える機会があり、津波啓発活動の一助として本校で須崎湾周辺模型を製作することとした。当地域は南海トラフ津波で２５ｍの津波が襲うと推測されている。須崎工業高校には、地域のため頑張って頂きたいと言う願いから、１万分の１の模型、東西南北１７ｋｍに相当する模型を２７年４月から設計に入り翌年７月完成した。模型の製作や贈呈の様子はＮＨＫＴＶ番組「明日 につなげよう」２８年１０月２日に全国放送された。

２　南海トラフ地域の模型の製作

南海トラフで予測される津波は、巨大津波に莫大な被害をもたらすとおもわれる。この様な状況の中、被害が最小限に向かうことを願って、海底地形の模型製作を行う。模型の寸法は、長さ４ｍ１５ｃｍ×幅１ｍ８０ｃｍ×高さ１８ｃｍである。この模型は、宮崎県日向灘沖から茨城県鹿島灘の約１，０００ｋｍ間で南海トラフ、相模トラフを網羅し、これまで製作したものでは一番大きく、既存模型の２倍強となる。

３　世界津波の日「高校生サミット」に参加。

平成１７年から活動を続けている、津波模型班が東日本大震災で被災、復興を経験した経緯を世界に向けに発表した。

４　防災活動「疑似津波実演会」の推進

模型で、津波防災啓発活動を行う「疑似津波実演会」の拡張を図る。多くの人に見て頂き

いつ、どこでも、津波災害と遭遇しても安全に避難できる心構えを身につけることを目的とし実施した。

（Ⅱ）取組の成果と課題

１　四国地方の津波模型の製作と高知県県立須崎工業高等学校への寄贈

平成２７年度から製作開始して１年３ヶ月を要し、須崎市周辺模型を完成させることが出来た。寸法は１．８０ｍの正方形、重量１３０ｋｇ、縮尺１万分の１、須崎市を中心に東西南北約１７ｋｍを網羅し、将来予想される津波の高さは、２５ｍである。贈呈式は、２８年７月２２日高知県立須崎工業高校で行われ、生徒会執行部と全職員、実演会に参加する須崎高校、室戸高校の生徒・教員が迎えてくれた。プレゼンテーション紹介後、場所を移動し贈呈式を行った。その中で模型を将来のため役立てる事を誓い友好を交わした。この様子はＮＨＫＴＶ番組「明日につなげよう」で１０月２日に全国放送された。

工業高校へ模型を贈呈したことは、新規模型の製作・活用の参考にしてもらいたいとの思いを込めたものであり、今後、製作についての技術的な指導等が必要になると思われる。

２ 南海トラフ地域の模型の製作
（製作状況報告）

主要寸法、長さ４ｍ１５ｃｍ×幅１ｍ８０ｃｍ×高さ１８ｃｍである。この模型は、宮崎県日向灘沖から茨城県鹿島灘の約１，０００ｋｍ間で南海トラフ、相模トラフを網羅したものである。これまで製作したものでは一番大きく、既存模型の２倍強となる。製作状況は、 昨年９月から放課後や休日を利用して製作を開始し、南海トラフ最深５，０００ｍから水深１，４００ｍまで組立・塗装を終えたばかりである。製作した生徒からは、「初めての作業でとても大変だった。」「中身は細かい作業で集中しての作業が必要だった。」「少しずつ完成に近づけることが出来よかった。」「今後、後輩達が継続して製作し完成させてほしい。」などの感想や意見がでた。

須崎高校職員玄関に設置

３ 世界津波の日「高校生サミット」
（参加報告）

世界津波の日「高校生サミット」は津波関係国３０ヶ国、国内３５校の総勢３５９人が参加し昨年１１月２５・２６日に開催、本校から津波模型班３名が参加した。３分野 １２ブロック編成、当ブロックはベトナム・ギリシャ・サモア・福島県立磐城高校・大阪府創価 高校と共に、「備え」をテーマに意見交換することが出来た。模型を使って防災教育は珍しく、質問も多く返答に手間取り、更なる英語力の向上の必要性を感じた。

参加した生徒達は、地震が様々な国で起きる災害であって、各国が関心を持って津波への対策を考えていること学んだ。

ギリシャ・サモア・ベトナム・福島県立磐城高校・大阪府創価高校と宮古工業高等学校

４ 防災活動「疑似津波実演会」の推進

4.月のマレーシア・コタキナバル高校から始まった疑似津波実演会は、大学３回、高校３回小学校６回など年間合計１６回行うことが出来た。津波で高台移転した学校では校舎が昨年完成し、新校舎での津波実演会を行うことが出来た。また、本校からさほど遠くない内陸部の小学校出身の卒業生が津波模型班に所属しており、母校での疑似津波実演会の必要性を説き実演会に至った。

震災後６年が経過し、震災の風化が叫ばれる中、沿岸部以外での小中学校等への実演も視野に入れ啓発していきたい。